

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術誌掲載論文) 南京国民政府下における高 等教育問題の動態——一九三 〇年代前半の教育部による国 立大学評価を踏まえて— (上・下) 【査読論文】	単著	2013年3月 2014年3月	アジア教育史研究 策 22号、第 23号 アジア教育史学会	論文全体の概要： 本稿は、南京国民政府教育部が各高等教育機関を対象に行った視学工作成果『教育部改進黨科以上学校訓令彙編』（1935年：教育部が各機関に発した教育部側命令文書を収録）を踏まえ、当時における教育部の訓令工作を概括した上で、各機関が抱えていた問題点を設置者別に整理し、特徴化することを目標に、国立機関（総合大学及び単科大学）の分析を試みた。 (当該論文のページ数：各号とも 23 頁：本論部分) (当該書評の掲載ページ：各号とも巻頭論文で、いずれも pp.1～23)
2 (発表) 南京国民政府下「高等教育問題」の構造的考察—「国立北平大學」小史の検証を軸に—	単独	2017年10月	アジア教育史学会 2017年度(第26回)大会 (南山大学名古屋キャンパス)	発表全体の概要： 本発表は、南京国民政府の高等教育政策の意義を明らかにすべく、当時の「高等教育問題」の本質を明確化することを目的に、一つの手懸かりとして、設立以来、政治に翻弄され続けたと言ってよい特徴的な機関＝「国立北平大學」の“興亡小史”（1928年、政府(李煜瀛派)主導の下に「国立」機関として創設されながら、教育組織の改組が繰り返され、結局は日中全面戦争(1937～45年)を背景に、1937年秋に事実上解体された)を検証することで、南京国民政府下「高等教育問題」の構造的特徴化を試みた。
3 (書評) 『中国教育の改進黨』 (国際連盟教育使節団著、大塚豊訳) — “ヨーロッパ四賢人”、中国教育視察報告書、八十二年目の採光—	単著	2015年3月	アジア教育史研究 策 24号 アジア教育史学会	書評全体の概要： 本稿は大塚豊氏による国際連盟教育考察団(The League of Nations' Mission of Educational Experts, 1931年9月在華調査)の中国教育実態調査報告書“The Reorganisation of Education in China” (League of Nations' Institute of Intellectual Co-operation, Paris, 1932.)の本邦初の試みとしての全訳(邦訳)に関する書評である。本稿は同訳書刊行後に行なった大塚氏へのインタビューを踏まえ、邦訳書の特色や訳書中には示されていない諸々の事実についても整理紹介した。 (当該書評のページ数：4 頁) (当該書評の掲載ページ：pp.69～72)
4 (報告) 2016年度 IDE セミナー報告 中国・四国支部 「高大接続 —質保証とその課題—」	単著	2017年7月	IDE 現代の高等教育 No.592 IDE 大学協会	報告全体の概要： 本稿は、2016年8月、IDE 中国・四国支部及び広島大学主催で開催された「第48回 IDE 大学セミナー」の報告である。2014年12月の中教審答申「高大接続改革答申」を踏まえた専門家会議「高大接続システム改革会議」の最終報告が公表され(2016年3月)、入試動向が中高生を持つ保護者らの関心を集める中、わが国の高等教育界をリードする荒井克弘、金子元久両氏から「高等教育改革」論が提示され、これらを受けた議論で私学助成に関する議論を欠く入試改革の限界性、義務教育段階の学力確認がない現状での高大接続の重要性、基礎テストを全高校生対象にできぬジレンマ、「学力」観など改革実施以前に解決すべき課題の多さが確認された。 (当該報告のページ数：5 頁) (当該報告の掲載ページ：pp.76～80)
5 ()				